





藤本貴久の

「頭突き」



東京6R ニシノクラッチ  
友人が彼女を連れて競馬場に。すると初対面の子に「写真より若く見えますね」どうやら友人と同年なの信じられなかったらしい。その視線：「氣遣われた？」「前2走が好メンバー相手。一気に差す」



大川浩史

強気の競馬でディーブ粉砕  
トウシンモンステラ(京都11R)が勝ったディーブインパクトCの2分22秒8は、10月の京都とはいへ速い。なぜ速いタイムが出たかという点、京都外回りでは珍しいハイペース(千通58秒7)だったから。スローペースの申し子とも言えるディーブインパクトの名を冠したレースにディーブインパクト産駒

競馬人情 吉川良

京都記念でキズナとハイブスターが顔をそろえる。はなやかなレースになったなあ。どっちが勝つだろう。そう思っているらと考えてみるのも競馬の楽しみです。

キズナもハイブスターも、どちらも父がディーブインパクトである。凄い競走馬だったけど、種牡馬になってからも凄いなあ。種牡馬について考えてみるのも競馬の楽しみである。

キズナとハイブスターのマッチレースみたいじゃないか。そういうことはよくあるけれど、そのどちらかに割って入るのはいないのか。それにどちらか負かしてしまうかもしれないのは

☆	グ	対	率
①	着外	200	.266
②	着外	204	.218
③	着外	206	.213
④	着外	165	.191
⑤	着外	183	.178
⑥	着外	171	.180
⑦	着外	151	.164
⑧	着外	167	.153
⑨	着外	139	.178
⑩	着外	27	.163
	着外	163	.144
	着外	144	.144

(2014年終了)

☆関東所属ジョッキー特別

が出走せず、そしてハイペースになったのは面白いが、ディーブインパクトCの上位馬はその後、芳しくない。なぜなら「通常営業」のスピードだったから。特にトウシンモンステラは、ハイペースのディーブインパクトCで早めに動いたのに、スロ1の日経新春杯では後方待機。あれでは不発も仕方ない。

今回ハイペースになるとは思えないが、人気のディーブインパクト産駒(キズナ・ハイブスター)はスローでも後方待機。ディーブインパクトCのような強気の競馬なら、一発がある。

私にはラプリーディに、打倒2強を託してみる。15度目の重賞挑戦となった前走の中山金杯で、4番人気をはねかえしての1着。その粘りと勢いを、キズナとハイブスターにぶつけて欲しいのだ。

馬単⑥④、⑥⑧。 ちらほらと梅の花が咲きはじめて共同通信杯である。ドゥラメンテの前走、セントポリーア賞の圧勝が目に残っていて、かなりの器だなと感じた。惜敗が続いたアヴニールマルシェも目に残っている。それにリアルステイールとアンビシャスの大物感も。馬単⑧①、⑧③、⑧⑩。